

氏名： 菅 聡子 (KAN Satoko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 博士 (人文科学) (2000 お茶の水女子大学)
専門分野： 近代日本文学、とくに明治小説、女性作家
E-mail： kan.satoko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

日本近代文学 / ジェンダー / メディア / サブカルチャー
Modern Japanese Literature / Gender / Media / Subculture

◆主要業績

総数 (12) 件

- ・「女性作家・樋口一葉と〈われ〉の生成—詠歌行為の視座から—」(「文学」第9巻第4号、平成20年7・8月号、pp61-73)
- ・「私たちの居場所—氷室冴子論」(菅聡子編『〈少女小説〉ワンダーランド』明治書院、平成20年7月、pp75-85)
- ・「〈スキヤンダル〉としての女 遠藤周作文学における女性像をめぐるささやかなノート」(「叙説」平成20年12月28日、pp22-30)
- ・「ヒモと〈女〉と—荷風小説の夢のあと」(「文学」第10巻第2号、平成21年3・4月号、pp50-60)
- ・「柳原白蓮の〈昭和〉」(「お茶の水女子大学 人文科学研究」第5巻、平成21年3月、pp1-12)

◆研究内容 / Research Pursuits

日本近代文学、とくに女性表現を研究対象とし、ジェンダーの視点から研究している。
近年の関心は、女性表現と国民国家の共謀関係における感傷の規制の解明である。
同様の関心から、現代サブカルチャーについても研究をすすめている。

My specialization is about Japanese women's writing. Especially I study from the view point of gender.

Recently I focus on the system of sentimentalism in the conspired relationship between women's literature and the nation state.

I study about the problem of contemporary subculture samely.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部では、近代日本文学史等、基本的文学研究関連の授業に加え、ジェンダーの視点から、従来の作品評価の再検討を行い、学生が新しい視野を拓くことができるよう、授業を展開している。

大学院では、研究の最先端の問題意識を共有し、それを自らの個別研究に生かすことができるよう、ゼミを中心に授業を展開している。

◆研究計画

女性文学と国民国家との連関について、継続的に研究をすすめる。

さらに、そこからの展開として、女性読者研究に焦点を絞り、時代と女性の欲望の交差や、テキストと読者間の interaction について研究していく予定である。

◆メッセージ

文学研究は、ともすれば現実社会とコミットしていないと考えられがちだが、それは誤りである。私たちは、つねに「物語」のなかを生き、ときに、より「大きな物語」による抑圧を受ける。そのような抑圧にあらがうために、私たちは「物語」自身のみならず、その「物語」を発信・受容するシステムや、「物語」のコンテキストを読み解く力を持たなければならない。そのような広い意味でのリテラシーを得ることができるのは、文学研究の分野である。そもそも、現在の私たちをとりまき脅かす「大きな物語」の原型は、すべて過去にすでに語られたものなのだ。そのようなアクチュアルな学問の形として、文学研究はある。